



「評価について」

本校では、以下の考え方に基づいて、学習評価を行っています。

学習評価は、教師が子どもの学習の成果をみとり、指導の改善や修正を図るとともに、子どもたち自身が「自分の学びをふりかえったり、次の学びに向かったりすること」ができるようにするための重要な役割を担っています。そのため、学習評価を通して、「子どもたち自身が自分の学びをふりかえったり、次の学びに向かったりすること」は、学校経営方針の「C育てたい力・態度」の具体として示している「自分の生活を自分でコントロールする力や態度（自律）」を育てることに結びつくと考えています。

では、実際の授業の中で、教師はどのように学習評価を行っているのでしょうか。次に示すのは、体育科「走高跳」の授業における子どものふりかえりです。この記述を手がかりに、教師がどのように子どもの学びを見取り、その後の指導や子どもの次の学びにつなげているのかを、順に見ていきます。

走高跳のポイントが分かりました。この単元が始まった時は、踏み切りのタイミングが合わなかったり、つま先などが引っかかったりして、バーを越えられないことがありました。しかし、グループの仲間と気付いたことや高く跳ぶためのポイントなどを繰り返し伝え合うことで、毎回同じ歩数で踏み切ることや、踏み切る足を固定することなどが、少しずつできるようになりました。その結果、「いち・に、いち・に・さん!」というリズムカルな助走で跳べるようになり、目標記録を更新することができたので嬉しかったです。これからも自分で考えて挑戦してみたり、仲間とアドバイスを送り合ったりすることで、走高跳の学習以外でもレベルアップしていきたいです。

この子どもは、ふりかえりを通して、これまで「踏み切りのタイミングが合わなかったり、つま先などが引っかかったりして、バーを越えられない」自分と、「同じ歩数で踏み切ることや、踏み切る足を固定することで、リズムカルな助走で跳べるようになった」自分を比較する中で、仲間と気付いたことや、より高く跳ぶためのポイントを伝え合うよさを経験し、それをこれからの学習につなげようとする姿が見られます。

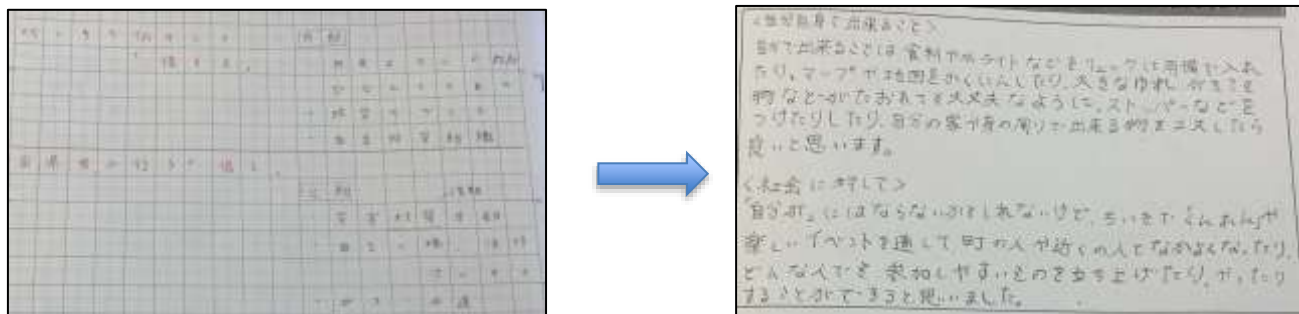
教師は、授業の流れの中で、このような子どもの姿をその場で見取っています。走高跳の授業であれば、助走の歩数や踏み切る足の構え、助走のリズム、踏み切った位置やバーの越え方などを、一人ひとりを見ながら確かめます。例えば、踏み切りが合わずにバーを越えられない子どもには、「踏み切る足を決めてみたらどうかな」と声をかけ、次の試技で「踏み切る位置が安定してきたね」「助走のリズムがよくなってきたね」と、できたことをその場で認めます。また、仲間と跳び方を見合う場面では、「友達の跳び方を見て、参考になりそうなところを探してみよう」と投げかけ、伝え合いが深まるように支えています。そして、授業が終わると、その日のふりかえりの記述を読み、子どもの気付きやつまづきを把握します。教師は、授業中の子どもの発言や活動の様子、友達との関わり方、ノートやふりかえりの記述など、さまざまな情報から、子どもが「何ができるようになったのか」「どのようなことを考えているのか」「どこで困っているのか」を見取っています。そして、その見取りをもとに、子どもの学びを認めたり価値付けたり、必要に応じて声をかけたり、学習課題や学習方法を工夫したりしています。学習評価には、授業の中で子どもの学習状況を見取り、その後の指導に生かす場面と、学習の成果を記録として残す場面があります。教師は、授業中の子どもの発言や活動の様子、ふりかえりなどから学習状況を捉え、その場で声をかけたり、学習課題や指導方法を工夫したりするとともに、単元や学期などの節目には、学習の成果を記録として残しており、それぞれの目的や場面に応じて評価を生かすことで、子どもの学びを支えています。

このような教師からの働きかけによって、子どもが自分の学びや課題に気付き、「次はこうしてみよう」と次の学びに向かうことができるようにしています。つまり、学習評価は、子どもの学習の状況や成果を捉え、その状況に応じて教師

が指導を改善するとともに、子ども自身が自分の学びを振り返り、次の学びにつなげていくためのものです。

学校では、このような子どもの学習成果を教師と子どもで共有していくことができるように、タブレット端末内に、学びの足あとを残していく「デジタルポートフォリオ」の取組を行っています。「デジタルポートフォリオ」には、「子どもの作品の記録」や「自己評価の記録」、「教師の指導と評価の記録」などが蓄積されており、これを用いて、通知表を子どもに受け渡す際や、個人懇談会の際に、子どもの学習成果を共有する材料にしていきます。

次に、「デジタルポートフォリオ」の一例として、子どもが蓄積している学びの足あとを紹介します。



この児童は、これら2枚の写真をデジタルポートフォリオに残していました。これは、社会科「自然災害から人々を守る活動」の学習における、学習ノートと単元の最後に行ったふりかえりシートの一部です。

左の写真は、「共助」や「公助」について学習した際の記録です。「地域で協力して備える」という共助について、「お年寄りへの対応」「避難訓練」「防災イベント」「自主防災組織」などを挙げています。また、「国・県・市が行う備え」という公助について、「災害対策本部」「自衛隊」「消防」「警察」「ガス・水道」などを挙げています。このことから、共助や公助という言葉を知るだけでなく、災害に備えて地域で協力して行うことや、国・県・市などが行う具体的な取組について捉えていることが分かります。

右の写真は、単元の学習を終えて、「自分自身で出来ること」と「社会に対して」できることについてふりかえったものです。「自分自身で出来ること」として、食料や水、ライトなどを準備すること、ハザードマップを確認すること、家具などが倒れても大丈夫なようにストッパーを付けることなど、自分の身の回りのできる具体的な備えについて考えています。また、「社会に対して」できることとして、地域の訓練やイベントを通して町の人や近所の人と仲良くなることや、どんな人でも参加しやすい活動を立ち上げることを挙げています。

この2枚の学習の記録からは、災害への備えについて、「自分自身で出来ること」と「地域や社会のためにできること」の両面から考えていることが分かります。また、単元で学習した共助や公助についての知識をもとに、災害に備えて自分には何ができるのかを具体的に考え、自分なりの考えを表現している姿も見取ることができます。

このように、デジタルポートフォリオは、子ども自身が学びの足あとを蓄積し、見返すための記録であると同時に、教師がその記録を一人ひとり読み、できたことや考えたことを価値付け、次の学びにつなげるための記録でもあります。単元の終わりのや学期の節目には、子どもと一緒に記録を見返し、「自分は何を学び、何ができるようになったのか」「学んだことをもとに、どのように考えたのか」などに気付くことができるように支援しています。また、通知表を子どもに受け渡す際や個人懇談会の際には、この記録を材料として、学習成果を子どもや保護者と共有します。こうしたデジタルポートフォリオが、日々の学びの過程を映す記録であるのに対して、前期末や年度末に学校から配布する通知表は、一定期間の学習の成果を観点別にまとめた記録です。視点は異なりますが、どちらも、子どもが自分の学びをふりかえり、次の学びに向かうために重要な役割を持ちます。

ご家庭でも、お子様と一緒にこの記録を開き、「このときは、こんなことを考えていたのだね」「ここができるようになったのだね」と、そのときの学びと一緒に確かめていただければと思います。そこには、子どもが何を考え、どのように取り組んできたのかという過程が残っています。ご家庭でその過程に目を向け、価値付けていただくことが、子どもの学びを次の一步につなげる支えになります。

ここまでお伝えしてきたように、学習評価には、授業の中で子どもの学習状況を見取り、その後の指導に生かす評価と、学習の成果を記録として残す評価があります。通知表に示された◎や評定は、こうした日々の見取りと評価を積み重ねた結果の、一つの表れです。子どもが持ち帰った通知表を見た際、◎や△の数だけを見て、「算数は◎が一つもなかったね。だから、次はもっと頑張らないといけないね!」とお話しされる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、◎や△の数や評定だけで子どもの学びを捉えてしまうと、「何ができるようになったのか」「どのようなことを考えて学習してきたのか」「これから何を頑張ればよいのか」といった、子どもの学びの過程や成長が見えにくくなってしまいます。また、子どもによっては、◎の数で自信を失ったり、劣等感をも

ったり、逆に、評価されたことだけで満足してしまったりすることもあるかもしれません。

学校では、通知表を手渡す際にも、担任がこれまでの子どもの頑張りや成長を認めるとともに、後期や次年度にさらに成長していけるような声かけを行っています。その際には、デジタルポートフォリオや日々の記録を子どもと一緒に見返し、「始めの頃は どうだったかな。今とくらべて、どんなところが変わったと思う?」「この学習で、いちばんできるようになったと思うのはどこかな?」と問いかけて、子ども自身の言葉で学びの変化を語ってもらうようにしています。そして、「後期は、どんなことができるようになりたいかな?」と尋ねることで、次の学期や次年度のめあてを子ども自身もてるようにしています。だからこそ、ご家庭でも通知表を一つのきっかけとして、◎や△の数に一喜一憂するのではなく、お子様とこれまでの学習をふりかえる時間をもっていただければと思います。◎が付いたところがあれば、「◎が付いたのは、どんなことを頑張ったからだろうね」と、そこに至るまでの過程や頑張り確かめてみてください。◎が付かなかったところがあれば、「どうすれば◎が付くようになるかな」「そのために、これからどんなことを頑張ればよいかな」と、次に向けた目標と一緒に考えてみてください。そして、「次は何を頑張りたい?」「どんなことに挑戦してみたい?」といった会話を通して、これからの学習にどのように向かっていくのかを、お子様自身が考える機会にいただければ幸いです。

<10月の行事予定>

日	曜	10月の行事予定	11月の主な行事予定
1	木		6 日 (金) 前日準備 1～3 年昼下校
2	金	授業参観	7 日 (土) スポーツデー 弁当日
3	土		8 日 (日) スポーツデー 予備日
4	日		9 日 (月) 代休
5	月		10 日 (火) 弁当日
6	火	給食終了 クラブ活動④	17 日 (火) 学校評議員会② クラブ活動⑥
7	水	前期終業式 12:00 下校	24 日 (火) 学校懇談会③ クラブ活動⑦ 3 年生クラブ活動見学
8	木	秋期休業 5 年宿泊活動	
9	金	秋期休業 5, 6 年宿泊活動	
10	土	秋期休業 5, 6 年宿泊活動	
11	日	秋期休業 6 年宿泊活動	
12	月	スポーツの日	
13	火	後期始業式 給食開始 クラブ活動⑤	
14	水	1～4 年身体測定	
15	木		
16	金		
17	土		
18	日		
19	月	個人懇談会	
20	火	個人懇談会	
21	水	個人懇談会	
22	木	個人懇談会	
23	金	スポーツデー特別時程開始	
24	土		
25	日		
26	月		
27	火	幼小合同講演会	
28	水		
29	木		
30	金		